

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

昨年同様に文系受験生にとっては難しい内容の問題が多かった。具体的には、大問1では文字式の計算において分数式が出現、大問2では題意の把握、大問3では $y-x$ の値の推移など難しいと感じた受験生が多かっただろう。どの問題も完答するのが難しく答案作成も難しい。設問(1)(2)を確実に得点することが重要である。

<特記事項・トピックス>

3題とも昨年同様の出題分野である。

昨年と同様に数学Aの「数学と人間の活動」に属する整数が出題された。

昨年と同様に理科との共通問題が1題、ほぼ共通の問題が1題と計2題出題された。

<合格への学習対策>

各分野における典型的な問題を論理的に記述する学力を養成することから始めたい。頻出分野は「確率」、「整数」、「微分法」、「積分法」であるが、これらの学習のためには他分野の理解も必要不可欠である。次に、過去問演習などの実践的な問題演習において、新たな問題とじっくり向き合い、問題の理解や解答の方針を立てるための思考力を養いたい。また、大問1のように座標平面全般の融合問題にも取り組んでおきたい。記述力を磨くために、答案作成の練習もしておくべきである。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅱ	微分法 三角関数	(1)では典型的な2接線に関する問題であるが文字が多いので計算に注意したい。(2)では $\angle CAB = \frac{\pi}{2}$ を傾きの利用、ベクトルの利用など言い換えるのがポイントである。(3)では x 軸正方向からの回転角を利用するとよい。(4)では $\theta \geq \frac{\pi}{3}$ である条件を $\frac{1}{\tan \theta}$ を利用すると解きやすい。	標準
2	記述	A	整数 場合の数	(1)では不等式を利用して絞り込むとよい。最大公約数が1であることに注意したい。(2)では(1)の誘導を利用する。(3)では素因数分解をし、素因数の種類に着目することがポイントである。(1)から(2)の流れとは異なる視点が必要である。	やや難
3	記述	A B	確率 数列	状態推移の問題と考えれば典型的であるが、具体的な座標ではなく「どの直線上にあるか」に注目するところがユニークで対応力が問われる問題である。確率漸化式は名古屋大学では頻出である。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。